

《入選》

暮らしやすい社会へ

彦根総合高等学校 一年

教野 翔愛 さん

SNSでよく、アメリカで男性同士が結婚をおこなった写真を見かける。同性同士で恋愛をすることですら難しい世の中で、男性と男性や女性と女性という同性同士で結婚できることを私はとても素敵なことだと思つ。「素敵」や「羨ましい」というコメントが多い反面、誹謗中傷も多く見かけた。見てみると同性婚が認められていない国の人々からのコメントが多かった。そこには日本人もあり、「同性同士で結婚とありえない」「男女で結婚するのが当たり前」「気持ち悪い」というたくさんの誹謗

中傷の言葉が書かれてあり、どうしてそんな風に思うのかと衝撃を受けた。

不法移民や偽装結婚など問題があるため、誹謗中傷が必然と多くなってしまうことは理解できる。しかし、長年付き合つて同性婚した人たちに對して誹謗中傷が多いことが疑問に思われる。最近では、多様性という言葉がSNSやメディアでよく聞く。そのため、日本でも同性婚や性的少数者について理解は深いのだろうと勝手に解釈していた。しかし、理解している人は少なく、多くの人には知られていない言葉なのではないかと同性婚をした人たちへのコメントを見て思った。

同性婚について調べていると、法律で、日本では結婚は男女間であることが前提とされている表現がある。そのため、結婚は男女間である

ことが当たり前という認識なのだと思う。実際、日本では同性婚はできず、男女間でしか結婚できない。同性婚をしたい人々は、アジアで唯一結婚できる台湾やアメリカまで行き結婚しているようである。私も昔は結婚は男女であるものだと思つていた。男女間でおこなうという認識があるからこそ同性婚に對して誹謗中傷があるのだろう。多様性という言葉の意味や認識の違いなどを少しでも知つておくだけで理解が深まるかもしれない。知つているだけで、同性婚や性的少数者の誹謗中傷を減らすことができるのだと思う。

昔に比べると同性婚や性的少数者に対する差別や偏見をしている人は少ないだろう。しかし、少なくなっただけで完全にその差別や偏見がなくなつたわけではない。そういう人達は思つてい

ても口に出さずに心にしまつておくべきだ。私の身の回りには性的少数者の人はいないと思つているが、知らないだけでたくさんの人がいるのかもしれない。多くの人が自分の性的指向を打ち明けることができる社会になれば、より性的少数者の人が暮らしやすくなると思う。